資料１

静岡県景観懇話会の開催結果

１　静岡県景観懇話会の概要

本県の景観施策について有識者から意見・提言をいただく静岡県景観懇話会を平成 30 年１月 29 日に設置し、平成 30 年９月 21 日に２回目の会議を開催した。

本懇話会は、武内和彦特任教授（東京大学国際高等研究所サスティナビリティ学連携研究機構）を会長とし、景観工学、都市計画、建築、教育、観光・国際等を専門分野とする有識者 10 名で構成される。

２　今回の懇話会の議題

(1) 大規模太陽光発電設備の適正導入に向けた取組について
(2) ふじのくに景観形成計画進捗状況評価について

３　意見・提言の要旨

(1) 大規模太陽光発電設備の適正導入に向けた取組について
- 必ずしも排除が最良ではなく地域の振興につなげる考え方もあるので、地域づくりの問題の一環としてさらに検討すべきである。
- 再生可能エネルギーと地域の環境保全について、総合的な評価や予測を行っていくことが重要である。
- 土砂流出等による河川や海洋の汚染が二次的な景観改変を引き起こすことも考えていくべきである。

(2) ふじのくに景観形成計画進捗状況評価について
- できそうなことをできたというだけではなく、どうやったらできないことができるようになるのかについて検討するべきである。
- 主観評価ではなくエビデンスに基づいた評価をするべきである。
- 地域的な特性を踏まえた仕組みづくり（協議会など）を他地域や世界の事例と比較しながら検討すること。

４　今後の対応

(1) 大規模太陽光発電設備の適正導入に向けた取組について

環境、産業、土地利用、ライフスタイル等を含んだ幅広い視点から総合的に検討する必要があることから、県全体の課題として受け止めている。今後も引き続き、景観施策での対応のみならず、関係部局に対応を働きかけていく。

(2) ふじのくに景観形成計画進捗状況評価について

より実効性の高いＰＤＣＡとするため、先行する他地域や世界の事例等を参考に、計画内容や評価方法の見直しについて検討する。